

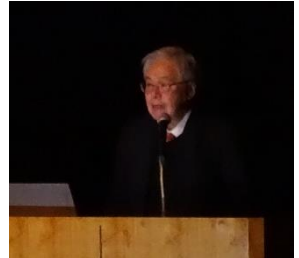
令和5年度シンポジウム
公益財団法人都市防災美化協会 主催

「緑地整備と体制のあり方に関するシンポジウム」

2023年11月29日（水）
滝野川会館大ホール

◇理事長挨拶

ー1964 五輪・駒沢オリンピック公園と 2020 五輪・新国立競技場の違いー



1. 『街路樹シンポジウムの趣旨』 藤井英二郎氏（千葉大学名誉教授）

藤井講師より、緑地整備をテーマに今回の報告書を作成したが、そこで提起した課題を含め、今日のシンポジウムでは 60 年前の駒沢公園整備にあたられた当事者の二人に当時のナマの様子を語ってもらって皆さんの今後の参考にしてもらいたい。また、緑地整備と体制の違いを考察するために、二人には東京都・施工界のその後の推移にも言及してもらい、現在われわれが抱えている課題を浮き彫りにして今後のあり方を提言できればとおもっている、と説明があった。

2. 『東京都における駒沢オリンピック公園の計画・設計・施工管理体制とその後の推移』 中島宏（元東京都公園緑地部部长、都市防災美化協会前理事長）

中島講師より、入庁直後の新人時代に携わった駒沢オリンピック公園について、その計画・設計・施工管理体制、実際の作業の進め方等を当時の貴重な資料をもとに、各種エピソードも交え、写真も駆使して当時の造園工事の状況について幅広く説明があった。



また、報告書でも言及されている現場公園内での都の管理体制による工事進捗管理の利便性なども具体的に説明された。終盤では東京都の公園事業のその後の推移などの説明があり、「自然との共生」を目指す7か条について熱く語られた。

3. 『駒沢オリンピック公園の施工とその後の施工界の推移』 松田武彦（元東光園取締役、一造会第二代会長）

松田講師から、造園会社若手社員時代の約 60 年前に携わった駒沢オリンピック公園の施工にあたっての立木の調達方法・運搬実務など造園工事作業について、当時の写真を豊富に使用して園内の主だった箇所具体的な作業内容の解説があった。また、その後の育成管理体制についても説明が行われた。

最後に、施工界のその後の主だった動きと造園業の特徴、課題についての問題提起があり、最後に行われる討論へとつなげられた。



4. 『新国立競技場を取り囲む緑地の実態と今後の緑地整備・体制のあり方』 藤井英二郎氏
(千葉大学名誉教授)

藤井講師からは、配布資料に沿い、新国立競技場が出来上がるまでの変遷と浮かび上がった問題点、続いて、整備計画の基本理念とその後の実態との乖離について、現競技場周辺に見られる具体例をあげながら説明が行われた。

最後に、駒沢オリンピック公園と新国立競技場との緑地整備・体制のあり方について語られ、整備体制の比較・説明があった。



5. 『討 論 コーディネーター』 山下得男 ((株) 富士植木取締役、街路樹診断協会副会長)



まず、山下さんからコーディネーターとして現状をどう捉えているかについて、分離発注・一括発注の違いや技術者不足の状態、予算はあるがそれを消化できない、などの観点から問題提起があり、各講演者に意見を伺った。

その後参加者からの質問に回答する時間を設け、市民活動家を含め多くの方々から熱心な質問が寄せられ、それぞれ講演者が対応した。

終了予定時刻もきたところで、最後にコーディネーターから今後の造園業界はどうあるべきなのかといった課題がかたられ、会は終了した。



後援 (12 社) (一社) 街路樹診断協会、(一財) 日本造園修景協会、(一社) 日本造園建設業協会、
(一社) 東京都造園緑化業協会、(一社) ランドスケープコンサルタンツ協会、(一社) 日本樹木医
会、全国一級造園施工管理技士の会、(一社) 埼玉県造園業協会、(公社) 日本造園学会、(公財) 都
市緑化機構、(公財) 東京都慰霊協会、(一社) 日本公園施設業協会